



第4章

地域別構想

1 上越地域

(5) 上越西部中山間地域

(6) 上越東部田園地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・上越地域の上越東部田園地域は、上越都市計画区域の東部に位置し、広大な高田平野に水田が広がり、その中に農村集落が点在する地域です。
- ・本地域は都市計画区域*となっており、市街化区域*の戸野目周辺を除き、地域の大半が市街化調整区域*になっています。

②まちの変遷

- ・本地域では、古くから大規模な新田開発が行われたことにより全国有数の稲作地になっており、近年は大規模ほ場*整備を行い農業の効率化を図っている地域です。
- ・本地域の北部には、健全でゆとりある田園居住空間を計画的に誘導し、農村と調和したまちづくりを目標として、上越市内で最初に優良田園住宅（アーバンビレッジ）*の整備が行われた地区があります。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、地域西側に一般国道 18 号上新バイパスが南北に通っており、妙高市・長野県方面や柏崎市方面、糸魚川市方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。また、上越市と魚沼方面を結ぶ上越魚沼地域振興快速道路*が計画されています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、南北に一般国道 18 号上新バイパス、主要地方道新井柿崎線、主要地方道上越頸城大湫線が通り、東西に一般国道 253 号、主要地方道上越安塚浦川原線、主要地方道上越安塚柏崎線、一般国道 405 号、一般県道青柳高田線、主要地方道上越飯山線が通っています。これらの道路は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域には、路線バスが運行しており、主に高田方面と連絡しています。

④地域資源

- ・本地域には優良な農地が多く存在し、ゆとりある集落が形成されています。一面に広がる水田や屋敷林に覆われた集落とが一体となった田園景観があり、田園景観のシンボルとなるはさ木やため池などがあります。
- ・本地域の西側では、上越魚沼地域振興快速道路*の整備予定地に隣接して上越総合運動公園があり、将来的には県立武道館（予定）が整備される予定です。
- ・広大な平野を流れる中江用水は、地域の農業基盤のひとつとして、欠かせない重要な施設です。
- ・旧河川の水辺や草地、森林、様々な動植物が生息・生育する氾濫原については二貫寺



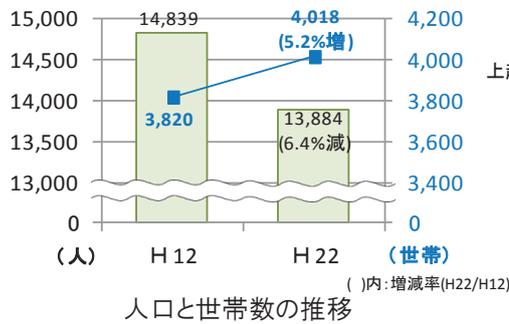
の森自然環境保全地域（大字上真砂、大字杉野袋、大字下百々）に指定されており、農林水産省のため池百選に選ばれている青野池などの豊かな自然資源があります。



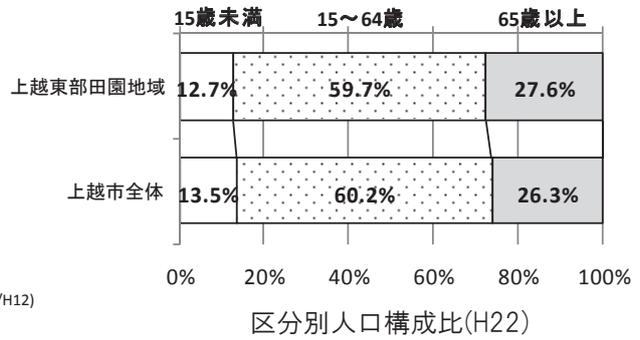
優良農地に囲まれた集落



地域資源のはさ木



人口と世帯数の推移



上越東部田園地域に関するデータ

- 総面積：約 60 km²（約 6%）
- 総人口：13,884 人（約 7%）
- 世帯数：4,018 世帯（約 6%）
- 15 歳未満の人口比率：約 13%
- 高齢化率：約 28%
- 人口増減率（H22/H12）：約 6%減

出典：平成 22 年国勢調査に基づき集計
※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 田園地域では、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。
- 田園地域における農業環境の維持とともに、田園景観の維持・保全に向けて取り組む必要があります。
- 上越魚沼地域振興快速道路*の整備促進や、上越総合運動公園、県立武道館(予定)などの整備進展とともに、今後の社会経済情勢の変化に合わせ、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

①土地利用の現状と課題

- ・本地域では、ほ場*整備によって一団の農地が形成され、大規模な優良農地が存在しており、その中に農村集落が点在する田園地域となっています。
- ・そのため、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・また、集落及び農業環境や自然環境、田園景観の維持・保全を図るため、市街化調整区域*における適正な土地利用が引き続き必要です。
- ・本地域では、二貫寺の森自然環境保全地域や青野池など、地域住民が身近に親しむことができる自然資源の保全が引き続き必要です。
- ・上越魚沼地域振興快速道路*の整備により魚沼方面からの新たな玄関口となる寺インターチェンジ周辺については、今後の道路整備の進捗状況や地域のニーズなどを考慮してゲートウェイとしての位置づけを視野に、ふさわしい機能の整備・誘導を検討することが必要です。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・本地域から魚沼方面との移動や交流・連携を支える広域ネットワークの強化のため、上越魚沼地域振興快速道路*の整備促進が必要です。
- ・地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・また、直江津方面や妙高市・長野県方面への通勤・通学などの日常的な移動や広域的な交流を支えるとともに、北陸新幹線開業による来訪者の交流を促進するための公共



交通の維持・確保が必要です。

③上越総合運動公園の現状と課題

- ・ 本地域の西側に位置し、上越魚沼地域振興快速道路*の寺インターチェンジに近接する上越総合運動公園は、計画面積 24.3ha のうち、5.4ha が供用されています。広域交流を更に充実させるため、今後の県立武道館（予定）の整備計画の進展にあわせ、上越総合運動公園の魅力を高める整備の推進が必要です。

④安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・ 一級河川*の戸野目川、飯田川、桑曾根川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・ 災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・ 空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。

3) 本地域が担う役割

『豊かな田園と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や『広域交通の充実をいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 田園地域における集落内の暮らしを維持・確保するため、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- 田園地域における地域住民の暮らしの維持・確保のため、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全及び自然環境の保全に向けた土地利用を検討します。
- 上越魚沼地域振興快速道路*や上越総合運動公園、県立武道館(予定)の整備進展、社会経済情勢の変化に伴う新たな地域のニーズに応じた土地利用の検討などにより、市内外との交流・連携を支援します。

① めりはりのある土地利用の推進

- ・ 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- ・ 市街化調整区域*においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- ・ 寺インターチェンジ周辺については、上越魚沼地域振興快速道路*の整備により魚沼方面からの新たな玄関口となることが予定されることから、今後の道路整備の進捗状況や地域のニーズなどを考慮して、ゲートウェイとしての位置づけを視野に、ふさわしい機能の整備・誘導に向けた土地利用を検討します。
- ・ 地域住民が身近に自然と親しむことができる二貫寺の森自然環境保全地域や青野池などの自然資源や上越総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

② 道路ネットワークの確保

- ・ 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路*及びその周辺道路の整備を促進します。
- ・ 本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・ 地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



③公共交通ネットワークの確保

- ・これまでの路線バスなどの地域公共交通*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの重複区間の再編成などにより、地域公共交通*を維持・確保します。
- ・上越妙高駅へのアクセスの確保に向けて、鉄道と路線バス、路線バス同士などの乗り換えがスムーズになるようなダイヤ設定などを働きかけます。
- ・利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。

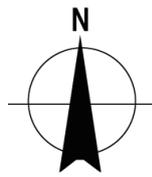
④スポーツ活動を軸とした交流の場としての上越総合運動公園の整備

- ・スポーツ活動を軸とした交流の場を形成し、広域的な交流をさらに促進することにより地域活性化を図るため、県立武道館（予定）の整備計画の進捗をみながら、上越総合運動公園及びその周辺も含めた整備を計画的に進めます。

⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・県により管理される一級河川*の戸野目川、飯田川、桑曾根川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*や雨水幹線*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図 上越東部田園地域



凡例		公園		交通ネットワーク	
土地利用 住宅を主とする低層低密な住宅地 生活利便施設混在型住宅地(中高層) 生活利便施設混在型住宅地 沿道商業混在型住宅地 商業混在型高層住宅地 工業集積地 流通業務地 港湾業務地 商業集積地 生活利便商業集積地(一部、沿道商業混在型住宅地を含む) 田園地域 中山間地域 集落 都市計画区域 集落地区計画		広域公園 総合公園 運動公園 特殊公園 地区公園・近隣公園 街区公園 その他の公園(農村公園、広場など) 自然公園		交通ネットワーク 広域 高速道路 高規格道路 主要な幹線道路 都市計画道路 都市計画道路以外 都市計画道路 都市計画道路 その他幹線道路 ※実線は現状 点線は計画・構想 鉄道 新幹線 駅 IC	
その他 河川 自然環境保全地域 景観づくり重点区域 水道水源保護地域 市役所・総合事務所 小・中学校・高等学校 中等教育学校 大学 病院 工業団地 その他の施設					

第4章 地域別構想 1 上越地域 (6) 上越東部田園地域



第4章

地域別構想

1 上越地域

(6) 上越東部田園地域

(7) 大潟・頸城(西部)地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・上越地域の大潟・頸城(西部)地域は、上越都市計画区域の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道8号や一般県道犀潟柿崎線、一般県道大潟上越線沿道を中心に市街地が形成されている地域です。
- ・本地域は、全域が都市計画区域*となっており、日本海沿岸部や頸城区西部に市街化区域*が広がり、その内陸側が市街化調整区域*になっています。

②まちの変遷

- ・大潟区は、近世までは養蚕、製塩などを営む半農半漁の村、そして北国街道の宿場町として発展しました。また昭和33年にガス油田が開発され、有力企業の進出により田園工業地域へと変化しました。
- ・頸城区(西部)は、江戸時代から土木技術の粋を結集して用水路整備やほ場*整備を進め、優良な農地を築きあげました。また、明治時代に製油所が操業し、その後に近代工業の基礎を築いた大工場が立地し、昭和40年代以降の高度経済成長の中で工業が発展しました。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、地域の中心を北陸自動車道、一般国道8号が横断しており、合併前上越市や柏崎市方面、糸魚川市方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして機能する重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、一般国道8号、主要地方道大潟高柳線、主要地方道上越頸城大潟線が通り、さらに都市計画道路黒井藤野新田線の整備が進められています。これらの道路は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域の大潟区には北陸自動車道大潟スマートインターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、JR信越本線の黒井駅・犀潟駅・土底浜駅・潟町駅があり、直江津方面や長岡市・新潟市方面を連絡しています。また、犀潟駅には北越急行ほくほく線が乗り入れ、直江津方面や十日町市・湯沢町方面を連絡しています。
- ・本地域には、路線バスが運行しており、主に浜線や上越大通り線、南川線などが直江津方面や高田方面を連絡しています。このほか、地域内には頸城区地域巡回バス、市営有償運行バス(スクール混乗バス*)が運行しており、地域内を連絡しています。

④地域資源

- ・潟町砂丘に後背する湖沼群の中でも大きい朝日池に隣接して、“潟”の貴重な自然を残



し伝えつつ、自然を学ぶ場となる大潟県営都市公園があります。

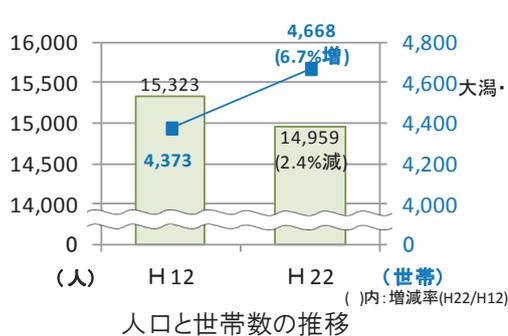
- ・ 本地域には、鶺鴒の浜海水浴場、鶺鴒の浜温泉街、大潟健康スポーツプラザ鶺鴒の浜人魚館、大潟野外活動施設（キャンプ場）などがあります。また、日本海沿岸部では日本海に沈む夕陽を望む景観が楽しめます。
- ・ 本地域に近接する頸城区中心部には、酒をテーマとした坂口記念館や、軽便鉄道・蒸気機関車が保存されているくびき野レールパークなど、観光・文化資源があります。
- ・ 本地域には、直江津港や一般国道 8 号からアクセスしやすい土地条件をいかして、新潟県南部産業団地、大潟工業団地、西福島工業団地に製造業などの工場が立地しています。
- ・ 本地域の大潟区には、刺網漁が盛んな大潟漁港があります。



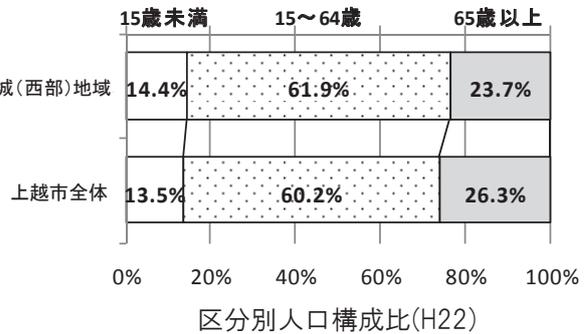
大潟県営都市公園



新潟県南部産業団地



人口と世帯数の推移



大潟・頸城(西部)地域に関するデータ

- 総面積：約 24 km² (約 2%)
- 総人口：14,959 人 (約 7%)
- 世帯数：4,668 世帯 (約 7%)
- 15 歳未満の人口比率：約 14%
- 高齢化率：約 24%
- 人口増減率 (H22/H12)：約 2%減

出典:平成 22 年国勢調査に基づき集計

※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境・農業環境の確保に取り組む必要があります。
- 産業などの集積と、主要な交通ネットワーク及び北陸自動車道大湊スマートインターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用の維持・向上に取り組むことが必要です。
- 自然資源や観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

①土地利用・拠点の現状と課題

- ・ 本地域では、市街地内には住宅地、工業集積地、流通業務地、商業集積地があります。その外側には農地が広がっています。今後、生活環境・農業環境の確保のため、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図る必要があります。
- ・ 地域の西側及び土底浜駅付近に工業集積地がありますが、一部に未分譲地が残っています。産業立地を促進するため、産業分野の施策との連携による工業集積の維持や地域のニーズの変化に対応した土地利用が必要です。
- ・ あわせて、一般国道 8 号などの主要な交通ネットワーク及び大湊スマートインターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用の維持・向上に取り組むことが必要です。
- ・ 集落及び農業環境や自然環境、田園景観の維持・保全を図るため、市街化調整区域*における適正な土地利用が引き続き必要です。
- ・ 本地域には、大湊県営都市公園などの自然資源や、鵜の浜海水浴場、鵜の浜温泉街、大湊健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館、大湊野外活動施設（キャンプ場）、隣接する頸城（東部）地域にある坂口記念館、くびき野レールパークなどの観光・文化資源があります。これらをいかした交流・連携の充実を図るため、自然環境の保全や観光・文化資源などの保全・活用が引き続き必要です。
- ・ 本地域の大湊区には行政機能である総合事務所があり、その周辺に商店、学校などがあります。今後も、行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持するため、日常生活に欠かせない機能が集積する拠点を引き続き形成していくことが必要です。また、本地域において、将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・ 本地域では、既成市街地*などにおいて安全な道路空間の確保が必要な箇所や未整備の都市計画道路*があります。
- ・ 地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道及び北陸自動車道などの安全・安心な道路ネットワークの確保



に取り組むことが必要です。

- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・また、直江津方面や長岡市・新潟市方面、十日町市・湯沢町方面への通勤・通学などの日常的な移動や広域的な交流を支えるとともに、北陸新幹線開業による来訪者の交流を促進するための公共交通の維持・確保が必要です。

③安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・本地域の市街地には、都市計画下水道区域が指定されていますが、未整備の箇所が残っています。良好な住環境の形成を推進するため、公共下水道の整備・普及を進めることが必要です。
- ・一級河川*の保倉川、潟川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・津波ハザードマップ*において、沿岸部の一部が津波発生時の避難対象地域に指定されています。そのため、避難対策について行政と地域住民が一体となった検討が必要です。
- ・災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。
- ・本地域の沿岸部にある鶉の浜海水浴場などの海岸において海岸浸食が進んでいます。そのため、海岸浸食の進行などを軽減するための対策が必要です。

④都市環境の保全に向けた現状と課題

- ・近年、従来の工場など産業活動に起因する苦情に加えて、住居系の地域で発生する騒音などの苦情や飲食店やサービス業の悪臭苦情など、公害苦情が多様化しています。そのため、生活環境の維持・向上に引き続き取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『地域拠点、生活拠点を中心に暮らし続けられる地域』や、『工業、農業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 大湊区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療、福祉などの日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 工業集積地では、産業立地を促進するため、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 自然資源の保全や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路*や生活道路*の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

※中心的エリア：総合事務所周辺

①めりはりのある土地利用の推進

- ・住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・幹線道路*の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・工業集積地においては、産業立地を促進するため、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- ・流通業務地においては、北陸自動車道及び一般国道8号や直江津港に近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。
- ・流通業務地における市街地の無秩序な拡大を抑制するため、大規模商業施設の立地制限に関する土地利用規制の維持に取り組みます。
- ・鶴の浜温泉街周辺の商業集積地では、まちのにぎわい創出のため、観光・交流施設などの集積を誘導します。
- ・生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。
- ・既存の市街地においては、市民が安心して快適に生活できる住環境の形成や、市街地内の低未利用地*の土地利用の促進を図るため、今後の社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じた適正な土地利用を検討します。
- ・田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野



- と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- ・市街化調整区域*においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- ・地域住民が身近に自然と親しむことができる大潟県営都市公園などの自然資源の活用や、鶉の浜海水浴場、鶉の浜温泉街、大潟健康スポーツプラザ鶉の浜人魚館、大潟野外活動施設（キャンプ場）、隣接する頸城（東部）地域にある坂口記念館、くびき野レールパークなどの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

②拠点の形成

- ・大潟区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- ・将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

③道路ネットワークの確保

- ・本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- ・本地域と隣接地域を連絡する幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢の変化や地域の実情に応じて、関係機関と連携しながら都市計画道路*の整備に努めます。
- ・長期にわたって未着手となっている都市計画道路*は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

④公共交通ネットワークの確保

- ・これまでの鉄道や路線バス、スクール混乗バス*などの地域公共交通*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線の統合や経路、ダイヤの見直しなどにより、地域公共交通*を維持・確保します。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、強風対策などを働きかけます。
- ・また、ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便を働きかけます。

⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。
- ・県により管理される一級河川*の保倉川、潟川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*や雨水幹線*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・津波から人命を守る観点から、津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップ*などによる周知活動を図ります。
- ・木造建物の耐震化による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- ・沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を推進します。

⑥都市環境の保全

- ・産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- ・また、生活環境の維持・向上、市街地や幹線道路沿道などでの景観の形成、防災面における安全性の向上、二酸化炭素の吸収などの環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。
- ・海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

2 柿崎地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・柿崎地域は、上越市の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道 8 号、北陸自動車道や柿崎駅を中心に市街地が形成されている地域です。
- ・本地域の西部は昭和 54 年 12 月に柿崎都市計画区域（非線引き*：市街化区域*と市街化調整区域*の区域区分を行わない区域）として当初編入指定され、一部に用途地域*が定められています。また、本地域の東部は都市計画区域外になっています。

②まちの変遷

- ・本地域は、江戸時代には北国街道の宿場町として栄えてきました。
- ・明治時代に信越本線が全通して以降、農業や漁業の振興が図られ、また工場の誘致、県立高校や県立病院の設置などが進み、頸北地域の経済・産業・文化の中心のひとつとして栄えてきました。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、地域西側を日本海に沿って北陸自動車道、一般国道 8 号が横断しており、合併前上越市や柏崎市方面、糸魚川市方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、一般国道 8 号、一般県道犀潟柿崎線、主要地方道新井柿崎線、主要地方道柿崎牧線、主要地方道柿崎小国線が通っています。これらの道路は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域には北陸自動車道柿崎インターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、JR 信越本線の柿崎駅・上下浜駅があり、直江津方面や長岡市・新潟市方面を連絡しています。
- ・本地域には、路線バス（一部、デマンド運行区間を含む）が運行しており、浜線が直江津方面を連絡しています。このほか、山直海線や黒岩線などが運行しており、地域内及び隣接地域を連絡しています。

④地域資源

- ・市街地には、バスケットコートが複数面とれるメインアリーナなど多様なスポーツで利用できる柿崎総合体育館や照明付き屋外運動場を含む柿崎総合運動公園、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、ゴルフ場などがあります。また、柿崎海岸は柿崎海岸自然環境保全地域となっています。